

2026年度 ●H東大・国立選抜 (i P class【東大専科】) 入試「数学」出題意図

1 小問集合

因数分解、連立方程式、整数、平面図形の入試の典型問題を出題。因数分解、連立方程式については典型問題であるが、計算の工夫をしないと煩雑な問題を出題し、見通しを立てて計算できるかを問う。整数、図形については、教科書の典型問題ではないので、受験数学の知識の定着を確かめた。

2 連立方程式の文章問題

長い問題文から必要な情報を読み取り、数式化して方程式を作れるかを問う問題。2人の会話文から整理して読み解いていく力が必要である。

3 すごろくを題材とした確率の問題

ゲーム(すごろく)のルールを理解し、過不足なく数えられるかがポイント。東大入試でも一見シンプルな条件であるが過不足なく数え上げるのが難しい問題が出題されるため、いろいろなシチュエーションをもれなく考えられるかを問う問題であった。

4 2乗に比例する関数の問題

2乗に比例する関数と直線に関する問題は定番であり、昨年の東大文科でも2次関数と法線に関する問題が出題された。今回の問題も、一つ一つを愚直に求めるのではなく、(1)(2)の結果から、同様に繰り返されて得られる点の規則性を読み取ることができれば、処理量を減らすことができた。

5 平面図形の問題

(1)では、円周角に関する証明問題を出題。三角形の合同や相似といった典型問題でない証明に対応できるかを問う問題であった。(2)ではラグビーのゴールキックに関して、一番最適な場所を考える問題であり、(1)で証明した図形の性質を利用することに気づけるかがポイントであった。

6 空間図形の問題

球に内接する円錐について、円錐の側面にかけたひもの最短の長さを問う問題。球に内接する円錐、円錐の側面にひもをかける問題それぞれは典型問題であるので、それらをつなぎ合わせて処理する力を問う問題であった。円錐にかけたひもの長さを考えるときは円錐の展開図で考えるのが定石であり、そこで相似な三角形を作ることができるかがポイントであった。